

溪声



Anniversary

今回、この「かんきょう高原いんぷお 溪声」は50号を迎えることが出来ました。これもひとえに、地域の皆様のおかげと感謝しております。今回は過去の記事を振り返りながら今後私たちがどういった情報を発信していけばいいか、考えていきたいと思ひます。

「かんきょう高原いんぷお」を始めたきっかけは、ISO14001の認証を取得することでした。パンフレットやホームページでの定期的な情報提供を行い、地域の皆さまに環境保全の重要性を理解してもらうことを目的として始めました。第1号は2002年9月に発行し、「高原川に清流を取り戻そう」という身近なテーマで、1日に出す水の汚れのもとを示し、その汚れを魚が住めるまで薄めるのに必要な水を表にしました。ちなみに米のとぎ汁(2ℓ)は1.2トンの水で薄めないと魚が住める水にはならないそうです。



平成20年7月発行の25号から『こんにちは。分析室です。』がスタートしました。分析課の業務内容から、水に関するさまざまな情報を紹介しました。水は私たちの生活に欠かせないものです。家庭では、飲み水のほかに、料理、洗濯、風呂、トイレなど様々な用途に使われ、そのほかに農業用水、工業用水など様々な場面で水が使われています。

また、ゴミの分別や浄化槽の仕組みといった身近なテーマから、温暖化やエネルギー問題など地球規模での環境問題まで、たくさんの情報を発信してきました。また、寄稿していただいている先生方からは、いろんな角度で、ものごとを見る大切さを学びました。

これからも、地域の皆さんが環境問題を考えるきっかけとなるように、様々な視点から情報を発信していきたいと考えております。

今後共よろしくお願ひ申し上げます。



PM2.5について

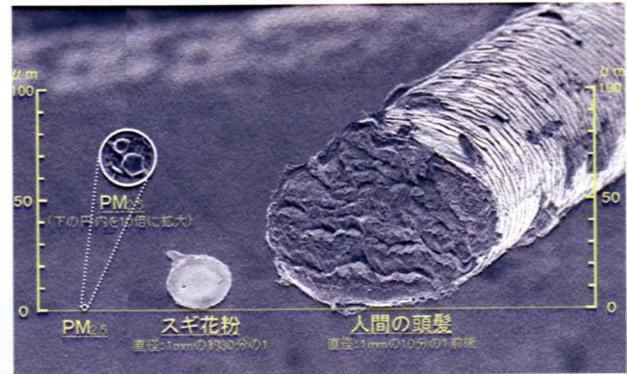
ニュースで話題になっているPM2.5についてお話ししたいと思います。

PM2.5とは、直径 $2.5\mu\text{m}$ (マイクロメートル)以下の微粒子状の物質です。物質の種類に関係無く $2.5\mu\text{m}$ 以下の大きさの物質は全てPM2.5と表現されます。

そして今問題になっている中国から降り注いでいるPM2.5を構成している成分には、炭素、硝酸塩、硫酸塩、アンモニウム塩のほか、ケイ素、ナトリウム、アルミニウムなどの物質が含まれています。

日本の環境基準では、1日の平均が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下となっています。1日の平均が $70\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えると身体に悪影響が出る可能性があるため、不要不急の外出や屋外での長時間の激しい運動をできるだけ減らすように注意喚起が行われます。

今回は身体への悪影響を少なくするための対策を紹介します。



東京都ホームページより引用



高原川漁協からのお知らせ

川は水だけでなく、
土砂も移動する場所です



上の写真は、昭和55年と最近の、釣瓶橋から上流を写したものです。2枚の写真から、何か気づかれることはありませんか？

川にある石の量が減り、その大きさも小さくなっている所に気づかれると思います。

土砂災害を防ぐために上流部で多くの砂防堰堤が作られ、我々は安心して生活できるようになりました。その反面、川床の低下や海岸線の後退といった影響が各地で現れています。

また、川にすむ生き物達は、河川を移動している土砂や石が造るほんのちょっとした地形を巧みに利用して生きています。そのため、河川を移動している土砂や石の質や量に変化が起きると生存が脅かされる生き物も出現します。

**人にだけでなく、他の生物の生息にも
配慮するのが、人間の責任です。**



かんきょう事業今昔物語⑤

当社では、いくつかの環境にかかわる業務を行っています。
では、ずっと昔、ご先祖様たちの姿はどのようなものだったのでしょうか？
数回シリーズでお届けいたします。

～トイレ～

今回は、「環境事業」の中でも私どもの仕事の原点、
トイレについて、昔のヨーロッパの姿を見えます。



18世紀頃までのヨーロッパの都市は、高い城壁で囲まれていました。庶民は3～5階建て程度の
アパート風の建物に住んでいました。ところが、なんと、トイレはなかったのです。人々はおまるを
使っていました。「外の定められた場所に捨てる」という決まりにはなっていましたが、実際には定め
られた所には持っていかず、汚水や汚物、ごみなども家の窓から外に捨てていました。

道路はそれらの捨てられた“モノ”でとんでもない不潔さとなっていました。それ以前からもハイ
ヒールはありましたが、当時、汚物でドレスの裾を汚さないためという理由でも履かれたようです。

ここまでは庶民の話でしたが、王侯貴族が住
んでいたお城や宮殿でも、事情は似たようなも
のでした。中世の王様は、城から城へと渡り歩い
ていました。それは、領地の隅々まで足を運ぶこ
とにより、国王の力を示すため、という理由もあ
りましたが、同じ地に長く居続けると、そこがあまり
にも不潔になってしまうからという理由もあり
ました。

名高いヴェルサイユ宮殿でも、トイレという部
屋はありませんでした。かろうじて椅子式の便器
はありましたが、人数に比べて余りにも少なか
ったようです。近くに便器がない場合には、廊下や
部屋の隅、庭の茂みで用を足していました。悪臭
はひどいものであり、このような背景から香水が
発達したとも言われています。

今のトイレ事情からすると、考えられない世界
です。でも、当時はそれが当たり前だったので
しょうね。今、私たちは十分に清潔なトイレ環境
にいるような気がしていますが、後世の人から見
たらどうなのでしょう？



ヴェルサイユ宮殿



ヨーロッパ中世の町並み

こんにちは! メンテナンス課です!

No.02



今回は、浄化槽の機能についてのお話です。

浄化槽には水洗トイレからの「し尿」だけを処理する単独処理浄化槽と、「し尿」と合わせて生活排水を処理する合併処理浄化槽があります。

現在の法律では「浄化槽」といえば合併処理浄化槽を指し、既設の単独処理浄化槽は「浄化槽とみなす」(みなし浄化槽)として区別しています。

浄化槽の中は大きく分けて4つの部屋(槽)に分かれています。これらの部屋(槽)は、水をきれいにするためにいろいろな役割を負っています。それでは各部屋の説明をしましょう。

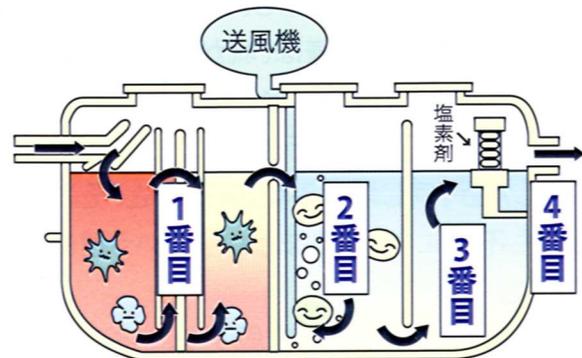


1番目の部屋は、一次処理室といいます

最初に流入してきた固形物(汚物)やトイレットペーパーなどをためます。固形物が除去された汚水は次の部屋に流れ、沈んだ汚物は汚泥(おでい)になります。

2番目の部屋は、二次処理室といいます

この部屋には送風機から空気を送り、酸素を必要とする好気性微生物のはたらきにより汚水をきれいにします。好気性微生物は汚水中の有機物を食べ、増殖した微生物は沈みやすい汚泥になります。この部屋に空気が送られないと浄化槽は機能を失い、水をきれいにする事ができません。



浄化槽の構造

3番目の部屋は、沈殿槽(ちんでんそう)といいます

ここでは、二次処理室(ばっ気槽)で沈みやすくなった汚泥を下に沈め、濁りを減らします。きれいになった水は最後の槽に流れます。

4番目の部屋は、消毒槽(しょうどくそう)といいます

濁りが取れ、きれいになった水を塩素剤で消毒します。その後、河川等に放流されます。

このように、浄化槽の内部では汚れた水をきれいにするために、目に見えない微生物が頑張っています。微生物が働きやすい環境を作るために、油をそのまま流したり、野菜くずやゴミを流したりしないようにしましょう。

ポルトガル

川村 和夫先生

名古屋市在住
 弁護士 37年目の 61歳
 多趣味

知っているポルトガル人は、と問えば、サッカーの好きな人は、クリスティアーノ・ロナウドの名を挙げ、音楽の好きな人は、アマリア・ロドリゲスを挙げるのだろうか。日本人が普通に知っているポルトガル人は、バスコ・ダ・ガマと、マゼランであろう。

バスコ・ダ・ガマが、ヨーロッパからアフリカ大陸南端を回って、インドへの航路を開いたことにより、日本の歴史も、大きく変わった。ポルトガル人が鉄砲を伝えなければ、織田・豊臣による全国統一は、あのような速さでは出来なかったであろう。因みに、織田信長や豊臣秀吉と会見した宣教師ルイス・フロイスも、ポルトガル人である。

まだ、ヨーロッパの多くの人々が、海には端があって、そこまで行くと落ちてしまうと考えていた頃に、地球が丸いことを信じて、南アメリカ大陸の南を回って、地球を一周しようとしたマゼランの航海も、人類の歴史上、重大な試みであったと思う。

日本人のグルーブも、アフリカ大陸の南を回って、天正、慶長の二度、ヨーロッパへ到達した。今日でも、ポルトガルは十分に遠いところであるが、その時代のポルトガルの遠さには、気が遠くなる。しかも、この二度の訪欧は、いずれも、訪問者に十分な成果を与えてはいないと言ってもよいと思われ、少し辛い気持ちになる。

ポルトガル第3の都市コインブラには、13世紀に創設された大学があり、バスコ・ダ・ガマやマゼランの航海が、地理学に裏打ちされたものであることが、実感される。

インド航路は、ポルトガルに巨大な富をもたらしたが、それは、帝国主義の先鞭を付けたものでもあった。いずれにせよ、ポルトガルの全ての栄光は、過去の夢である。ポルトガルの詩人カモンイスが、「ここに地終わり、海始まる。」と詩った、ポルトガルの、即ちユーラシアの西端ロカ岬に立つと、その思いは一層深い。



ロカ岬

ユーラシア大陸最西端の岬

船人の 夢は波濤を 越え行かむ
 風の岬に 残る幻

法要前に
いかがですか？

ご先祖様の眠る 墓石のお掃除致します

墓石掃除・草取り

一式 **2.7万円** (税込)
草取りのみでも承ります。ご相談下さい。

まずは
お見積を！
[無料]



清掃前



清掃後



草取り前



草取り後



別途料金にて
色入れ・草刈りも
承ります。

色入れ前



色入れ後



草刈り前



草刈り後

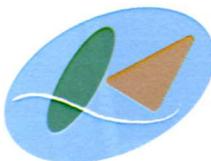


このコーナーでは、当社の社員が、環境衛生の仕事の現場で見たこと、感じたこと、あるいは仕事に関係のない趣味の世界を、交代で思いつくままに書き綴っていきます。

日本海の環境汚染

●平成16年入社
メンテナンス課所属 **前田 淳** (まえだ きよし)

私は釣りが好きで輪島市・珠州市方面に通いだして数年経ちます。初めて行った時、水の透明度に感動した事を覚えています。数回通ううちにゴミの多さに気づきました。漁具や流木、家庭ゴミ、粗大ゴミ、産業廃棄物等さまざまですが、書かれている文字から外国のゴミが目立ちます。私の行く磯場はとても陰しく撤去が難しい場所なのでしょう。ゴミが増え続けています。外国のゴミが多いからといって安易に外国を批判する事は出来ないと思います。日本も高度経済成長時代は環境を無視した過去があるからです。日本海の環境汚染が進むスピードは世界でもトップクラスだそうです。目にみえるゴミだけではなく、水質・大気も汚染され続けています。沿岸諸国の話し合いが近年始まりましたが、国の対策と共に国民一人一人が気付き行動する事が必要だと思います。



株式会社 神岡衛生社

〒506-1147 飛騨市神岡町東雲375番地

TEL0578-82-0337 FAX0578-82-5846 URL <http://www.k-eisei.co.jp/>

ホームページからお問い合わせ、ご注文など承っております。なかなか電話する時間がない方も、そうでない方もお気軽にどうぞ。

業務内容

- 一般廃棄物収集運搬/し尿、ゴミ(一般家庭・事業系) ●産業廃棄物収集・運搬 ●浄化槽清掃
 - 浄化槽保守点検 ●浄化槽工事 ●上下水道設備工事 ●下水道施設維持管理(終末処理場・管路)
 - 衛生設備維持管理 ●ビルメンテナンス/床清掃、排水管清掃、貯水槽清掃 ●リースキン代理店
 - 水質分析/環境分析、排水分析、建築物飲料水水質検査 ●環境衛生関連商品販売 ●墓石清掃
- その他、環境衛生に関する全般のご相談に応じます。